

弊社製品を安全にご使用いただくための注意事項

弊社製品の特長を生かし、安全にご使用いただくため、ここに記載する注意事項をよくお読みのうえ、必ずお守りください。お守りいただけない場合、負傷する危険や物理的損害が発生する恐れがあります。

△警告	死亡または重傷を負う可能性がある状態。
△注意	軽傷または中程度の傷害を負う可能性がある危険状態及び物的損害のみが予想されるような危険状態。

△警告 弊社製品は、一般工業用途向けに開発、製造されたものです。
安全面での配慮が必要な用途については、ご使用者様にて事前にご確認ください。
体内に埋植、注入する用途、或いは体内に一部が残留する恐れのある用途には使用しないでください。この用途に関する適応性、安全性についての保証は致しません。弊社製品のご使用については、取扱い上の注意をよくお読みのうえ、ご使用ください。

注) 文中の※印につきましては、用語説明をご参照ください。

トヨフーズアースホース

① ホース使用前及び使用時の注意

1. 使用流体は、食品粉粒体です。
2. 使用流体がホース内に滯留する場合は、樹脂臭気が内容物に移り、不快を感じる場合がありますので、ご使用前にご確認ください。
3. 飲料水・食料品でご使用の場合はホース内を洗浄してからご使用ください。（熱湯（80°C以下）30分以内、無圧で洗浄してください）
4. ホースは使用温度範囲内及び使用圧力範囲内でご使用ください。負圧使用の場合、用途・条件（温度・動き）によってはご使用になれない場合があります。負圧使用範囲の目安として、補足資料の「真空圧参考領域（図1）」をご参照ください。
5. ホース※3最小曲げ半径以上でご使用ください。最小曲げ半径未満でご使用になるとホースが折れ曲がったり、耐圧力の低下につながります。
6. 条件によって摩耗しやすい場合がありますのでホースの曲げ半径をできるだけ大きくとってください。
7. 屋外もしくは直射日光があたるところで使用しないでください。
8. △警告 ホースや継手の内面以外を流体（食品等）に接触させないようにしてください。
ホース補強層に流体が浸透したり、継手部に流体が残り、雑菌の繁殖（付着） ホースの劣化が発生する恐れがあります。
また、外面に付着したホコリやホースの断片（補強材）、印字インクが混入する恐れがあります。
9. △警告 ホースの静電気を防止する時は、静電防止帯を専用のアース用クリップあるいは、アース線等で接地（アース）されている設備・建造物に接続し、テスター等で導通確認をしてください。お持ちの機器によっては、導通確認できない場合があります。
10Ωまで測定できる機器を推奨します。（導通確認例、アース用クリップの取り付け方は、ホームページのトヨフーズアースホース詳細ページをご確認ください）
10. ご使用条件によって、静電防止効果が異なりますので、ご使用前に必ずご確認ください。
11. △警告 トヨフーズアースホースは災害の防止を保証するものではありません。安全管理はご使用者様にて管理してください。
12. △警告 静電気防止帯は、ホースの静電気帯電防止を目的としており、接続機器同士の接地線、ボンディング線、その他電気接続用途にご使用できません。また、使用流体を除電する機能はありません。流体の除電対策は別に講じてください。ホース両端末前後で発生した人的・物的損害につきまして、弊社はその責任を負いかねます。
13. 裸火に直接触れたり、近づけたりしないでください。引火物（ガソリン・溶剤等）の周辺では、使用しないでください。

② ホースカット時の注意

1. 補強材の端末でケガをする危険がありますので、十分ご注意ください。

③ アッセンブリーの注意

1. ホースニップルはホースサイズに適したものをご使用ください。また、ニップルの表面に傷・錆等のあるものは使用しないでください。
2. TFE-32、TFE-38、TFE-50はスパイラルワイヤーバンドまたは平バンドをご使用ください。平バンドを使用する際は、アース用クリップに接触させるか、接地（アース）またはボンディング処理を行い、テスター等で導通確認をしてください。スパイラルワイヤーバンドをご使用の際にも導通確認をしてください。バンドが絶縁されていると、静電気を蓄積し放電・引火する恐れがあります。
3. TFE-63、TFE-75、TFE-100は平バンドをご使用ください。
4. ホースバンドをご使用の際、過剰に締め付けますとホース内外面を切り、ホース破裂が発生する場合がありますのでおやめください。
5. ホースバンドは適宜増し締めを行ってください。バンド締め部の樹脂の歪みにより流体漏れやホース抜けの恐れがあります。

④ 検査に関する注意

1. 始業前点検…ホースご使用前にはホース外観上の異常（外傷、硬化、軟化、変色等）の有無をご確認ください。
2. 定期点検…ホースのご使用期間中には、必ず1ヶ月間に1度定期点検を実施してください。

このような異常が認められた場合

ホースの寿命は流体の物性、温度、流速、加圧、減圧の頻度に大きく影響をうけます。始業前点検、定期点検で次のような異常や、その兆候が認められた場合、直ちに使用を中止し、新しいホースと交換してください。

1. 継手付近の異常…局部的な伸び、湾曲、漏れ、ふくれ、ニップルへの差し込みが浅くなつた。
2. 外傷の有無…外面の大きな傷、ヒビ割れ、補強層への浸潤
3. 内面の異常…内面のふくれ及び※5剥離・摩耗（ホースの補強材の露出）
(注) 内外面の異常の場合、流体物中にホースの剥離物や補強材の断片が混入する恐れがあります。
4. その他変化が著しい場合（硬化、※6膨潤、ヒビ割れ、ふくれ、補強層の変色等）

⑤ 保管に関する注意

1. 屋外もしくは直射日光があたるところでの保管はしないでください。ホース表面のベタツキやヒビ割れ等、品質劣化の原因になります。
湿度の低い、風通しの良い場所に保管してください。また、ホース内に異物・ホコリが入らないように保管してください。

⑥ 廃棄に関する注意

1. 焼却しないでください。燃焼時に焼却炉を傷めたり、人体に有害なガスが発生する場合があるため、産業廃棄物としてお取り扱いください。
2. 廃棄の場合は、それぞれの地域の分別処理に従ってください。